

2025年11月18日

滋賀県知事 三日月大造 様

日本共産党滋賀県地方議員団

団長 滋賀県議会議員 節木三千代

野洲川の上流・土山町南土山地先での安定型産業廃棄物最終処分場建設計画について安易に許可することのないよう慎重な対応を求める要望書

現在、甲賀市土山町南土山地先において、近江バラス株式会社による安定型産業廃棄物最終処分場の建設が計画されています。

計画では、埋立廃棄物の種類は、廃プラスチック類、ガラス陶磁器くず、がれき類（コンクリートの破片その他これに類する不要物）で、石綿含有産廃も含まれています。また、最終処分場の面積は約26.0ha、埋立面積約11.8ha、埋立容量は約215万m³と県内最大規模となります。

建設予定地は、県下最大の河川である野洲川の上流に位置しており、仮に産廃処分場が建設されれば地域環境や水質汚染への影響が大きく、上流の地元住民はもとより、野洲川の水を水道水として利用している下流の市民、さらには農業用水などとして利用している湖南市・栗東市・守山市・野洲市などの下流域住民にとっても重大な問題です。

しかも、建設予定地の上流にはすでに、クリーンセンター滋賀と甲賀埋立処分場（ともに現在は廃棄物の受け入れは終了）があり、同じ水系に3つ目の施設が建つとなれば、さらに河川への環境負荷がかかることになります。野洲川の水は琵琶湖へと注がれていますが、事業者の説明会でも野洲川だけでなく琵琶湖の水質・環境への影響を危惧する声が多く出されました。また、現計画では、搬入される廃棄物の9割は県外からのものとのことであり、「なぜ県外のごみを多く受け入れなくてはならないのか」と規模の大きさを指摘する声も多く寄せられています。

建設予定地周辺の住民からは、水質汚染をはじめ、特産である茶や米などの農産物への風評被害、旧東海道宿場町の観光への影響、周辺地域に生息する生物への影響や運搬車両の増加に伴う市民生活への影響など、多くの弊害に対する不安が続出、産廃処分場建設に反対する声も高まっています。こうしたことを背景に、甲賀市議会も9月24日に「南土山地先安定型産業廃棄物最終処分場建設計画の認可に対し慎重な対応を求める意見書」を全会一致で可決、知事へ意見書が提出されたところです。

よって、許認可権者である滋賀県におかれては、こうした状況を鑑み、南土山地先安定型産業廃棄物最終処分場建設計画について安易に許可することのないよう慎重な対応を求めるものです。また逐次、情報を県民に公開することを求めるものです。

以上。